



～ありのままがいいよ～

近年、子供たちをとりまく環境はさまざまな変化をもたらしています。その中には、いじめや不登校など現代ならではの難しい問題、また、自尊心・自己肯定感をどう育むか？といった課題もあるように思います。辛いことがあってもそれに向き合いながら、いつかはすべての子供たちが大人になり、社会の中で一人の人間として生きていきます。

学校は小さな社会。そこに行けなくなってしまったら、社会に出られなくなるのではないかな？勉強が遅れたらどうやって取り戻すの？子供が「学校に行きたくない」と言った時、親はそんな心配と不安を感じ、わが子のために学校へ行けるように働きかけるでしょう。でも・・・本当は「行きたくない」と言った子供自身が、それを一番感じています。ありのままがいいよ！きみの居場所はきっとある！今回は、いじめや何らかの理由で学校に行くのが辛くなってしまった人たちへ・・・居場所を探した経験者の声とともに、一緒に考えていけたらと思います。今、もし、学校へ行けなくても、学校と縁がきれてしまう訳ではありません。学校はいつでも子供たちが帰ってこられる居場所としてありつづけ、学校へ行きたいと思えたとき、両手を広げて迎えてくれます・・・

♪『いじめられている君へ』で検索すると、

過去に朝日新聞で掲載された記事や、鴻上尚史さん、さかなクン、松井秀喜さん、西原理恵子さんの、心に響くメッセージがご覧になれます。

♪『子どものミカタ』 著:山登敬之 日本評論社 興味のある方ぜひ読んでみてください。

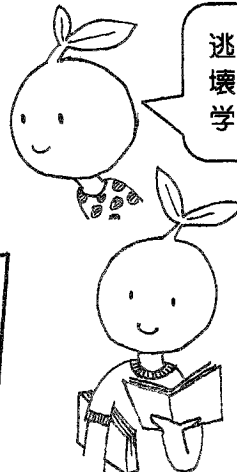
『行きたくない』は SOS

その原因やきっかけ・・・どうしてそんな気持ちになってしまったのか。その辛さに気づき、寄り添うことから始めよう。苦しすぎて息も出来なくなる前に・・・

世界は敵だらけ、と思っ
ているかも知れませんが、
仲間は実はいっぱいいます！
一人じゃないですよ。



逃げるのは、間違いじゃない！
壊れてしまうくらいなら、
学校じゃない場所へ行こう。



人生は一度きり。
今、自分に一番いいと
思うことをしようよ。
僕は、そう思う。

いじめとからかい、正否、の線引きはとても難しいけれど、一人の人間の人生を変えてしまうようなことはあってはいけません。深く傷ついている隣人にとどめを刺すようなことはやめてください。

想像してください。人を傷つけるために生まれた命はなく、傷つくために生まれた命もないことを...

学校は、すべての子供たちを受け入れてくれる場所じゃ。
「行きたくない」となった時、学校としてどんなことができるか？
親身になって考え、学校に居られるようにと最善をつくしてくれる
のじゃ。だから、よほどのことがなければ「辛いなら来なくてもいい」と、
学校からは言わん。子供の声にならない声を拾って判断するのは親なのじゃ。
学校や教育相談員、スクールカウンセラー、教育研究所教育相談室、
時には医療機関と相談しながら、登校し学校との連携で支えていくのか、
違う場所へといったん離れてみるのか、子供のために今できる最善の方法を見つけれ
るといいの～・・・



こんな場所があるよ

まずは、分かってあげる。それは親だけでなく、関わるすべての人たちだったら一番いい。
いつか社会に出た時、自分らしくいられるように。学校は小さな社会。勉強だけでなく学校で学ぶ
人との関わりはとても大切。でも、もし、そこに行けなくても、人と関われる居場所があります・・・

教育研究所 教育相談室 電話 03-3430-6655

専門教育相談員（心理・言語）・SSW（スクールソーシャルワーカー）など専門分野の先生が悩みを聞いてくださいます。

☆お電話で予約してください☆

ゆうゆう教室 電話 03-3430-1401

教員歴のある先生・指導員（臨床心理士・教員免許所有者）などが、不登校傾向にある子供たちを支え見守り、学校と連携。学校へ戻った時の土台となる環境で学ばせてくれる場所です。

☆各学校へ申請して手続きします☆

フリースクール KOPPIE（コピエ）

電話 03-5438-3910

みんなの居場所として18年前から狛江にあります。当初より学校と連携。コピエの登校も出席でカウントされます。ゆうゆう教室同様、不登校傾向にある子供たちの選択肢のひとつです。ゆっくりとした時間の中で、人間関係や人として大切なものに気づかせてくれる場所。自分を見つめなおせる場所。田植えなど、他では出来ない経験もできます。代表は臨床心理士です。

☆直接お電話で。火曜と木曜はお休み☆

自分らしくいられるための方法は人それぞれ。居場所が見つければ、そこから色々なことが見えてくる！

編集後記

仕事や住んでいる環境が自分に合わない時、大人だったら別の仕事を探したり、引越しをして生活環境を変えることができます。でも小学生はどれだけ今の生活が辛くても自分の意思で環境を変えることは難しい。集団生活が苦手だったり、学校での勉強方法が合わない子供は、大人よりも不利な立場にあるのかもしれない。

息子が通級に通い始める時、「苦手分野と得意分野がはっきりしている子は、小学校と中学校での生活はみんなと一緒にのこをやらぬといけぬのでとても大変です。でも、高校生になれば、得意な科目の時間が増えて得意な分野がますます面白くなり、苦手な科目は減らしたり取らぬこともできます。大学や社会では得意分野で大いに活躍が期待できます。小中学校の間、なんとか好きなことへの興味を失わぬでいれば、高校から先はきつとうまういきますよ。」と声をかけてもらい、不安だらけだった気持ちがとても楽になりました。今、子供が苦しんでいてもそれが一生続くわけではない、毎日の生活が楽しくなる時は必ずやってくるから、その時まで手伝ってあげよう。そう思うことが出来ました。長い人生、誰でもいつかはピンチに遭遇します。大人になって振り返ったとき、今の自分があるのはあの時悩んだり苦労したからだ。ときっと思えるはずですよ。